

令和4年度第1回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】 令和4年7月25日（月）19時00分～20時30分
- 2 【場所】 高知県歯科医師会館 会議室1.2
- 3 【出席者】 協議会委員出席14名、欠席5名、事務局6名、
障害福祉課1名、在宅療養推進課1名、福祉保健所2名

4 協議事項

- (1) 第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画について
- (2) 令和3年度の取組実績及び令和4年度の取組について

5 議事の経過の概要

会長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、協議が行われた。

議題

- (1) 第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画について
 - ・委員から、フッ化物洗口のデータについては施設数割合だけでなく児童数割合も示すべきとの指摘、ならびに、児童数割合についての質問があり、事務局から小学生の実施割合は高知市8.8%、安芸83.0%、中央東4.7%、中央西38.3%、須崎56.4%、幡多50.0%、県全体で22.1%であること、さらには、今後は施設数及び児童数の割合を示す旨を回答した。
- (2) 令和3年度の取組実績及び令和4年度の取組について
 - (子どもの歯と口の発達、歯肉炎・歯周炎の予防)
 - ・委員から、フッ化物洗口について、実施が進まない要因と新規導入支援の具体的な方法について質問があり、事務局から教育委員会等の理解や新型コロナウイルスの影響により実施が進んでいないこと、フッ化物洗口に必要な物品の購入、実施方法について指導をしていると回答した。
 - ・委員から、四万十市と安芸市で実施率が伸びたのは市長からのトップダウンと考えている。高知市と南国市も同じようにできないかとの質問があり、事務局からトップダウンもあるが、実施が進んでいない要因として現場の業務量も関係している。トップダウンについては今後検討が必要と回答した。
 - ・委員から、高知市はフッ化物洗口の推進にむけて市教育委員会の協力を得て取り組んでいる。保育所等からフッ化物洗口を働きかけており、洗口を実施していた園児が入学する小学校にアプローチをしている。今年度は保育所2園で開始し、小学校1校が2学期から開始予定。緊急事態宣言が出た時点では洗口を休止する施設もあったが、

再開に向けた助言や情報提供等を行ったことで現時点で休止している施設はないとの発言があった。

- ・委員から、高知市の場合は児童数も多いことから、洗口に割く時間がない、場所がない等の理由でフッ化物洗口の実施が進まないとの発言があった。

- ・委員から、大規模校でフッ化物洗口を推進していくに当たっては、他の大規模校の事例紹介、フッ化物洗口の効果を粘り強く伝えていくことが重要との発言があった。

- ・委員から、フッ化物洗口を進めて行くうえで PTA、子どもたちの意識が強い印象がある。トップダウンとボトムアップ両方から攻めていくことが必要との発言があった。

- ・委員から、平成 27 年から令和 2 年で歯周炎を有する者の割合が増加していることからデータの取り方が変わったのか、変わっていない場合、歯周炎を有する者の割合が増加した原因は何か質問があり、事務局からデータの取り方に変更はない、原因の分析まではできていないと回答した。

- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務の具体的な進め方について質問があり、事務局から事業所での指導に向けて研修等を実施、指導者用手引きを作成する。成人期から歯科に接する機会が少なくなるため、職場で歯周病に関しての指導等の機会を作っていくところから始めると回答した。

- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、健診会場内に歯科保健指導ブースを置き個別指導を実施する。現在は、指導ができる歯科衛生士の養成研修を行っているところであり、秋頃から事業所に出向き指導を開始する。総合保健協会に健診会場内に歯科保健指導ブースを置ける機会がないか相談をさせていただいているところとの発言があった。

(生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上：オーラルフレイル対策)

- ・委員から、若いうちからできる口腔機能低下の予防方法について質問があり、委員から自分で管理ができ、かかりつけ歯科医でプロフェッショナルケアを受けることで抑制できる。かかりつけ歯科医を持たれている方はデンタル IQ が高く、年を重ねても口腔内が乱れないとの発言があった。

- ・委員から、子どもの口腔機能が育っていないことが気になる。離乳食が食べる機能の発達に応じて進んでいないことや、マスク生活により口呼吸や口を動かさないことが増え、噛めない子どもが増えているのではないかと危惧している。また、かみかみ百歳体操を中断しているところも多く、集団の場でマスクをしても発声することを控えるよう助言されていたり、集まって口の体操をすること自体が新型コロナウイルスによって制限されているという状況もある。大人も子どもも口を動かしていないことを感じており、食べる口を育てていき、育ってきた口の機能が落ちてこないようにすること、かかりつけ歯科医を持ち、口のケアをしつつ、しっかり口を使っていくことも大事だと感じているとの発言があった。

- ・委員から、地域食育推進事業で学校に入った際に子どもたちに普段どのようなもの

を食べているか聞くと、ハンバーグ、カレー、ラーメンといった噛まずに食べられるようなものが多く、350gの野菜をしっかり食べることを、素材を味わって食べることを伝えている。また、たばこが歯に及ぼす影響も伝えているとの発言があった。

・委員から、評価指標に子どもの咀嚼や噛むことに関する項目をいれてはどうかとの質問があり、事務局からどういった評価方法があるのか今後検討していくと回答した。

(生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上：障害者の歯科治療の推進)

・委員から、重度心身障害児・者歯科診療事業について、全身麻酔下による歯科診療は順調に進んでおり、10月初旬まで予約は埋まっている。県にも、県民に対して事業のアピールに取り組んでいただきたいとの発言があった。

・委員から、県内東部在住の方の歯科保健センター利用者数は何名か、利用者数が多い場合、東部にも障害者が歯科診療を受け受けられる機会があればいいとの質問があり、事務局から分析ができていないため1143名の利用者の分析をし、県歯科医師会と相談しながら検討していくと回答した。

(在宅歯科医療の推進)

・委員から、在宅歯科連携室について効果的効率的な事業だと感じている。高齢者施設にも積極的に関わっていく様な体制をとっていただきたいとの発言があった。

(災害時歯科保健医療対策)

・委員から、県歯科医師会では8月から災害歯科コーディネーターを養成するため研修と訓練を予定しているとの発言があった。

(歯科衛生士養成奨学金)

・委員から、歯科衛生士養成奨学金制度について利用者が減少している。また、奨学金制度を利用してもマッチングが上手くいかないという問題も出てきている。制度を見直した方が利用が増えるのではないかと、人材の確保が大事との質問があり、事務局から本制度は地域偏在解消を目的に運用している。今後の広げ方については検討していく中で課題も出てくるため、課内で協議をさせていただくと回答した。

・委員から、歯科衛生士養成奨学金について、高知市内や中央部で卒後に経験を積んだ後、地域で働けるようなシステムを検討していただけたら学生が県内に残って、歯科医療に携わってもらえると感じているとの発言があった。

以上をもって、20時30分に閉会した。